

## 令和5年度 第2回南砺市立病院運営改革委員会

日 時	令和5年12月20日（水） 19:00～20:00
場 所	南砺市役所福光庁舎 4階 401会議室
出席者	<p>○委員 9名  中山繁實、松本久介、長瀬啓介、山城清二、長瀬博文（オンライン参加）、金子利朗、鍛冶本秀子、高橋佳寿江、羽場由美</p> <p>○市当局14名  田中市長、齊藤副市長、松田地域包括医療ケア部長、松岩医療課長、小原主査、重原主事（松本課長補佐代理）</p> <p>南砺市民病院  清水院長、藤井事務局長、吉岡総務課長、南部医事課長</p> <p>南砺中央病院  三浦院長、小又事務局長、南部総務課長、柴田医事課長</p> <p>※病院関係職員は総務課長を除きオンライン参加</p> <p>○傍聴 2名  北日本新聞、富山新聞</p>
欠席者	なし

### 1 開会 19:00

### 2 開会の挨拶 田中市長

### 3 協議事項

#### （1）来年度委員について

山城委員の任期満了に伴う補欠委員（任期1年）の選定について、事務局意見を含め協議を行った。

結果、補欠委員の任期が1年と短いことに加え、来年度におけるプランの進捗に係る評価等については、経営企画を専門とされる長瀬啓介委員および国派遣経営アドバイザー等による助言により目的達成が可能との見解から補欠委員の選任は行わないことを満場一致で決定した。

## (2) 南砺市立病院経営強化プラン等の策定状況について

医療課長から令和4年度決算状況を踏まえた現行プランの進捗状況および現在策定を進めている南砺市立病院経営強化プランの策定状況等について説明を行った。説明後、中山委員長より各委員へ意見を求めたところ、以下のとおり意見があった。

委員	<p>① 一般会計からの繰入金について</p> <p>レジメ P12、P17 にそれぞれ 2 病院の繰入金の見通しが掲載されていますが、各病院はどういったルールに基づき一般会計から繰入を受けているのかが不透明と感じます。こうした繰出金の概要については、現在策定されている経営強化プランにおいて、しっかりと情報公開すべきではないでしょうか。</p> <p>② 医師派遣拠点病院への財政支援について</p> <p>レジメ P7 に令和 4 年度決算における修正医業収支比率が載っておりますが、南砺市民病院は 89.9%、南砺中央病院は 91.6%となっております。医業収益から繰入金を除いた状態での収益比率では、南砺市民病院のほうが低い値となっているわけですが、この要因の 1 つとして南砺市民病院における病床稼働率の低下のほか、医師数が多いことによる人件費の影響があるのではないかと考えています。将来ビジョンや経営強化プランでは、南砺市民病院が「急性期医療の拠点」、「総合診療医・特定行為看護師等の育成拠点」、「市域における医師派遣拠点」といった役割を担うこととされておりますので、政策上、医師数や看護師数が多くなってしまうものと考えます。こうした背景を踏まえ、市から南砺市民病院へ何らかの財政的支援を行われる予定はないのか質問します。</p> <p>③ 経営強化プラン（市立 2 病院以外の病院との機能分化・連携強化）について</p> <p>経営強化プランの「1-5 医療資源を地域全体で最大限効率的に活用するための機能分化・連携強化」の「市立 2 病院以外の病院」の区分について、「医療需要に配慮しつつ、市全体として不足する医療ニーズ・介護ニーズに対応できるように関連機関等と連携し病棟機能の転換等を促進</p>
----	---

	<p>します。」と記載されていますが、具体的にどのような行動計画を想定しておられるのかお尋ねします。</p>
医療課長	<p>「①一般会計からの繰入金」については、ご意見のとおりであると認識しており、現在策定中の経営強化プラン「1-7 一般会計負担の考え方」の(2)一般会計負担金の算定基準・方法に明記することとしています。</p> <p>「②医師派遣拠点病院への財政支援」については、経営強化プランに記載しておりますとおり、市では2病院の一体的運営を目指しています。よって、病院個々での収支状況で判断するのではなく、病院事業全体での収支状況により判断すべきものと考えます。また、財政支援を行うか否かについては、医師・看護師等の適正人員数や、医師1人当たりの入院・外来患者数等を十分に把握した上で検討する必要があるものと考えます。</p> <p>「③経営強化プラン（市立2病院以外の病院との機能分化・連携強化）」については、地域医療構想調整会議や、本市が開催する地域包括ケア推進会議等において意見交換を行いながら機能分化・連携強化を進めることを考えております。</p>
委員	<p>南砺市の住民が医療で困ったとき、介護で困ったとき、それぞれの病院が連携し合い、役割に応じた機能を発揮し、医療・介護が必要な方々を包括的に受け入れる南砺版地域包括ケアの推進を願います。そのためのキーワードは今ほどおっしゃられた「連携」だと考えています。今後、市立病院の運営にあたって、民間病院等も含め、院長、事務長、看護部長、社会福祉士などが集まり南砺市が一体となった全病院合同の会議などを是非ご検討いただきたいと思います。</p>
委員	<p>P.20経営強化プラン「1-2 地域医療構想を踏まえた当病院事業の果たすべき役割・機能」の「(1)機能分化・連携の促進」に②に「在宅医療の限界」との記載がありますが、市ではこれまで訪問看護や訪問介護などの在宅医療に力を注いでこられました。それが「限界」というのは、どういう意味なのか説明をお願いします。</p>
医療課長	<p>在宅医療については、現在老々介護世帯が増加しているものと認識しており、在宅医療だけでは対応できない部分を介</p>

	<p>護医療院などの施設で対応していく必要があるという意味あいで記載させていただいております。</p>
委員	<p>現在の表記の「在宅医療の限界」では、今後は病院へ移行していくという誤解を招いてしまわないでしょうか。</p>
委員	<p>南砺市民病院、南砺中央病院の双方にて10年ほど外来を担当しておりますが、確かに老々介護等によりご家庭での在宅医療が困難となるケースが目立ってきているようには感じます。私はそういった意味合いでこうした表記になっているものと捉えたわけですが、地域全体がそうなっているわけではなく、個々のケースとしてそういった事例も増えているということで、ニュアンスがしっかりと伝わる表記にされてみてはいかがでしょうか。</p>
医療課長	<p>当該の表記では誤解を招きかねないため、在宅医療の複雑化または在宅医療の多様化といった文言に訂正させていただきたいと思います。ご指摘ありがとうございます。</p>
委員	<p>① アクションプランについて</p> <p>アクションプランにいつまでにどうするという具体的な内容が記載されていますが、もう少しスピード感をもって取り組んだ方が良いのではないのでしょうか。</p> <p>② へき地診療所における診療体制について</p> <p>利賀・上平地域の診療所において、診療時間が短縮となり非常に困っているとの声が地域づくり協議会連合会へ寄せられています。</p>
医療課長	<p>「①アクションプラン」については、医療機関間での機能分化や事務局の統合については、現在の診療体制を大きく変えるものであり、混乱等が生じないように1つ1つ確実に押さえながら進めてまいりたいと考えています。本アクションプランは毎年度その進捗状況を公表することとしておりますし、着実にプランに掲げた内容を履行していけるよう進めてまいります。</p> <p>「②へき地診療所における診療体制」についてですが、利賀診療所については、従来、富山県から自治医科大学の医師を派遣いただけてきましたが、今年度は派遣できない状況となりました。また、上平診療所では11月以降に医師が特別休</p>

	<p>暇を取られることになりました。そこで、県医務課を中心に ご尽力いただき、富山大学総合診療科および市立病院などから 協力を得ることにより、例年の診療時間を一部短縮しながらも、 週4日の診療日を確保させていただきました。住民の皆さまにはご不便 をお掛けしており、大変申し訳なく思っているところであります。</p>
委員	<p>へき地診療所の問題は、急を要する案件であると考えますが、 早急に対応する必要があるのではないのでしょうか。</p>
市長	<p>この問題は、市議会でも取り上げられており、何かしらの 対応を講じる必要があるものと強く感じております。例えば、 利賀診療所・平診療所・上平診療所間を往復できる仕組みを作る など、対応を検討してまいります。また、利賀ダム建設の関連で 多くの工事関係者の方が利賀地域で勤務されると聞いてお りますので、救急体制を含めた医療ネットワークをしっかりと 整えてまいりたいと考えております。</p>
委員	<p>今後、女性の医師も増えてきますので、子育てをしながら 働ける勤務環境を整えてあげることも重要となります。へき 地での診療は、研修医にとっても非常に良い体験ができる場 所ですのでアピールしていくことも大切であると考えます。</p>
委員	<p>厚生センターからは医療機関間での機能分化・連携強化に ついて意見を述べさせていただきます。前回の地域医療構想 調整会議において、南砺中央病院における介護療養病床を医 療療養病床に転換するという計画に対し、民間医療機関から 病院間で機能分化すべきではないかとの意見があったわけ ですが、経営強化プラン案を見ますと、来年度に医療療養病 床全体を介護医療院に転換することになったのだと見受けら れます。この部分につきましては、次回の地域医療構想調整 会議において、民間医療機関と機能分化を行うこととなった 経緯等をご説明いただきますようお願いいたします。その他、 経営強化プランの内容については、本県医務課等とも情報共有 しながら進めていただきたいと思います。</p>
委員	<p>現在、国をあげて子育てを支援する動きがある中、インフ ルエンザなどで子どもが発熱した際に親が子どもを家に置 いて仕事に行くというケースがあると聞きます。今はタブレッ</p>

	<p>トでオンライン授業に参加したりもできるわけですが、高熱を出している際に周りに誰もいないという状況は非常に危険だと感じます。例えば、そういった子どもたちを市立医療機関で預かってもらうことは可能なのでしょうか。</p>
委員	<p>南砺市民病院には「南砺市病児保育室」というものが開設されています。</p> <p>また、私が在籍する金沢大学附属病院においても病児保育室を持っているのですが、利用者の需要が非常に高い一方で、対応する医療従事者については本来の外来診療等に加えて病児対応も行わなければならないことから、そのサービスの範囲に限られるなどの課題もあります。そうした背景を踏まえると、どこかに組織を置き、病児を積極的に受け入れるというよりは、従業員を雇用する企業側などにおいて、ご家族が急病の際等には休暇を取得することができる体制を整えていくことが社会を維持していく上で大切だということを経験全体で考えていくべきと考えます。</p>
委員	<p>各自治体にファミリーサポートセンターがありますが、看護師が常駐していない施設では、インフルエンザや感染症等の疑いのある病児を受け入れにくいという状況もあります。</p> <p>また、一方で看護師をはじめとする医療従事者が減少していく中で、いかに医療資源を最適配置するかということを考えると、病児を預かる施設を設けて看護師等を常駐させるより、発熱した際には病院へ行くことができる勤務体制を作るべきだろうと私も考えます。</p>
市長	<p>市内で企業を営まれている方々におかれては、最近ではジェンダー平等や子育てに関して、意識が変わってきていると感じています。</p>
委員	<p>これからの医療という大きなテーマを考えるに当たっては、市民各々が考えている課題や問題が個々に出てきて議論が散漫になりがちなのですが、今回はこういった形でまとめていただくと全体像が把握でき、今日の議論においてもこの部分の何が問題なのかということを理解しながら、見通し良く議論ができたと思うので良かったと思います。是非、今後ともこういった進め方ができればと考えます。</p>

委員	医療人材の育成やデータサイエンス、こうしたものは将来への投資であると考えます。財政が厳しい中であっても、お金をかける部分にはしっかりと投資をしていくこともまた重要であると考えます。
委員	我々の財産であります市立病院を守るためにも、引続き病院経営の強化と医療人材の確保に向け頑張っていただきたいと考えます。
委員	看護学生等の受入を強化するという項目もありましたが、看護学生等から実習が辛いという声を時折耳にします。貴重な医療人材を大事に育ててほしいと思います。
委員	今日は現在のへき地医療のあり方に関して、不安や課題があるという認識で参加いたしました。会議の中でへき地医療の確保に向けて対応いただいていることや、今後も対応を考えてくださるということで少し安心しました。是非ともへき地医療を守っていただきたいと思いますので宜しくお願い致します。

## 6 事務連絡

次回の開催は、令和6年3月22日（金）19：00～を予定

## 7 閉会 20：00